



学会ホームページ <http://jasce.jp>

## 066号 (2022年6月30日)

### 目次

第18回全国大会情報  
臨時総会の報告(事務局より)  
学会役員選挙について  
『協同と教育』への投稿募集中  
会員情報の変更届  
第4回「オンライン講座」を開催しました  
学会認定ワークショップ今後の予定  
各地の研究会・勉強会  
出版情報

### 第18回全国大会情報

前号のニュースレターで既報の通り、第18回大会を2022年10月29日(土)～30日(日)にオンラインで開催します。本大会では「これまでの学び、これからの学び」をテーマに、教室内での学びだけでなく、学校の枠組みを超えた学びや個別最適な学びも視野に入れ、協同教育のこれからの可能性を探っていきたいと思います。1日目午後には奈須正裕先生(上智大学)をお招きし、「個別最適化時代に協同学習に期待すること」をテーマに記念講演を開催します。

発表の申込締切日を7月29日まで延長いたします。みなさまのご発表

とご参加を心よりお待ちしております。

1. 大会テーマ  
「これまでの学び、これからの学び」

2. 大会日程  
1日目:2022年10月29日(土)  
2日目:2022年10月30日(日)

3. 開催方法  
Zoomを用いたオンラインで開催します。オンライン・ミーティングへの参加情報は大会参加申込み後にご連絡します。

4. 発表形式  
口頭発表(研究発表と実践報告の2タイプ、発表20分質疑10分)  
ラウンドテーブル(120分。ただし90分・180分も設定可能)  
ワークショップ(120分。ただし90分・180分も設定可能)

5. 発表申込募集期間  
開始日 2022年4月25日(月)  
締切日 2022年7月29日(金)  
**延長します!**

大会で発表できるのは、**令和4(2022)年度までの会費完納者に限ります**。今年度の会費未納の方は発表要旨の原稿提出までに納入をお済ませください。

非会員の方が新たに会員となり発表を申込み場合は、7月25日(月)までに入会申込みと年会費入金が完了

している必要があります。

6. 発表要旨原稿受付  
開始日 2022年4月25日(月)  
締切日 2022年7月29日(金)

7. 参加申込期間  
受付開始日 2022年4月25日(月)  
受付締切日 2022年10月14日(金)  
大会参加には事前の申込が必要です。当日の受付はできません。ご注意ください。

8. 大会参加費及び納入口座  
会員・非会員を問わず、一律に5,000円です。

◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00290-4-92020  
加入者名 日本協同教育学会大会  
実行委員会

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行  
支店 ○二九  
口座番号 (当座) 0092020  
名義 日本協同教育学会大会  
実行委員会

9. 大会参加者専用サイト  
参加者専用のサイトを開設します。大会参加費を事前にお振り込み頂いた方に「大会当日サイト」や「発表要旨集録閲覧サイト」のURLをお届けします。

# JASCE

10. 大会に関する問合せ先  
日本協同教育学会大会実行委員会  
〒470-0207 愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233 東海学園大学  
水野正朗研究室内

E-mail: taikai@jasce.jp

お問い合わせはE-mailでお願い致します。件名に「日本協同教育学会第18回大会」の文言を入れてください。

第18回大会実行委員長 水野正朗

## 臨時総会の報告(事務局より)

役員選挙に先立ち、役員選挙管理委員会規程の一部修正案について会員の皆様にご審議いただき、原案通り了承されました。従来からの主な修正点は次の2点です。

- ・郵送投票を想定した表記をオンライン投票も含めた対応が可能な表記に変更しました。
- ・選挙により選出する役員数を10名と明記しました。

## 学会役員選挙について

学会役員3年の任期が今年度満了することに伴い、5月30日から6月11日までの間、オンラインで役員選挙を実施しました。選挙で選任された理事10名の協議を経て新会長を選出します。新会長は必要に応じて5名まで理事を指名することができます。会長指名の理事を加えて新しい理事会が成立します。新理事会の成立までいましばらく時間がかかりますが、

成立しましたら学会のメーリングリストやホームページなどでお知らせします。

## 『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第18号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

## 会員情報の変更届

年度がわりの異動や転居などにもなると、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに

会員情報変更をお願いします。届け出しは学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。  
(<https://www.jasce.jp/php/1044form.php>)

## 第4回「オンライン講座」を開催しました

◇2022年6月12日(日)に第4回「オンライン講座」を開催しました。参加者は講座に31名、情報交換会に26名でした。

今回は、「日本の協同学習(日本協同教育学会編, ナカニシヤ出版)」の「第3章アメリカの協同学習理論の需要と融合-協同学習ワークショップ

## 学会認定ワークショップ今後の予定(判明分)

### <ベーシック>

2022年8月27日(土)～28日(日)【公認】

会場：南山大学(名古屋市)D棟

方法：対面講座

講師：石田裕久・和田珠実

※新型コロナウイルスの感染状況により開催形式の変更または中止となる可能性があります(ハイブリット形式への変更はありません)。

### <アドバンス>

2022年11月26日(土)～27日(日)【公認】

会場：南山大学(名古屋市)D棟

方法：未定

講師：石田裕久・長濱文与

※この他の認定ワークショップにつきましても、状況が整えば対面で実施する予定です。申込み方法ならびに詳細は下記URLをご覧ください。  
(<https://jasce.jp/1031workshop.php>)

# JASCE

教材作成の舞台裏」を執筆された関田一彦先生(創価大学)を講師としてお招きしてご講演いただきました。そしてご講演に基づいて参加者は小グループで3度活動を行いました。関田先生からの情報提供を軸としつつも、参加者への質問等をもとに話題を広げ、活発な意見交換をすることができました。特に議論が活性化したのは「協同学習と協同教育」(「協同学習の3つ(ケーガン、ジョンソン、JASCE)の定義について」)でした。前者に関しては、参加者各自の協同学習が深まるような学びとなり、後者に関しては、3つの定義の比較から、共通するものの大切さや、一つひとつの言葉の意味を確認することができました。情報交換会では、これからの「評価」についての議論がされ、講座・情報交換会ともに「教師としてどう学生・児童・生徒を育てていくのか」「そのためにどのような協同学習をやっていくのか」を深く考えさせられる素晴らしい機会となりました。

◇次回の第5回「オンライン講座」は、9月に「第4章 協同による高等教育の活性化」を執筆された安永悟先生(久留米大学)を講師としてお招きして開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

作成者：石山信幸

問い合わせ先：研修委員会

(kenshu@jasce.jp)

## 各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇本研究会は2022年4月より、代表：緒方巧と5名の企画・運営委員：卜部絃子先生、織田千賀子先生(副代表兼任)、小八重和子先生、牧野典子先生、堀川真知子先生で運営していくことになりました。開催は年4回(5月、8月、11月、1月)、基本的には第4土曜日の午後にオンライン開催の予定ですが、全国のコロナ感染者数の状況により柔軟に判断し、対面やハイブリッド型で開催していく予定です。

5月28日(土)は、中京大学名誉教授の杉江修治先生をお迎えし、「看護教育の実践づくりと教師の協同」をテーマに講義をしていただきました。

協同学習を上司や同僚にどのように理解を得て実践していけるようになるか、組織内で協同学習の実践者を増やしていくための取り組み、教師の協同の意義、組織改編のプログラムなどについて学び合いました。参加者の多くが先生の新刊書『協同学習を深める』を読み持参していたため、杉江先生は一人ひとりに“協同学習を研ぐ”という言葉をくださいました。参加者は協同学習による自らの教育(授業実践)を研ぎ続けていくことを決意し合いました。

質疑応答の際に、杉江先生は大阪大東市の学校に協同学習が根付くのに8年を要した例や、根付いた協同学習が組織のリーダー交代によってあっけなく従来の教育に逆行しいった例などを挙げられながら、「一度でも協同学習を体験したことは子ども



# JASCE

たちの中に残っていくため、教師は屈せず実践を継続していくことが大切である」と励ましを下さいました。

参加者からは、「杉江先生は、やっと咲かせた協同学習の花を摘まれることがあっても、協同のもつ価値を信じて種を蒔き続けておられる。自分も微力ながら協同学習を根付かせるために貢献していきたい」、また「理解が得られにくい中で黙々と奮闘していたり、果たしてこれで良いのかと悩んだり、協同学習を行う上での課題や職場での困難さを抱えておられる先生方がおられるため、励まし合って、つながりが実感できる研究会は貴重だと思った」などの声が聴かれました。久しぶりの懇親会はスタジオの隣にあるサントリー WWW・Wで行い盛り上がりました。

◇次回は、8月20日(土)13:30～グランフロント大阪北館2階のアクティブスタジオで、ハイブリット型で開催致します。皆様のご参加を楽しみにお待ちしております。

連絡先：研究会代表 緒方巧(梅花女子大学 t-ogata@baika.ac.jp)

## (岡山・中国方面) 協同学習研究会

◇6月11日(土)、2022年度の第1回協同学習研究会をZoomによるオンライン形式により開催しました。大津市立中央小学校の藤本義人先生と神田豊先生の実践をご報告いただきました。実りある協同学習の実現のために、個々の「学ぶ力」を育むことが何より大切であること、しかしそれは決して容易ではないことをともに共

有する機会となりました。

連絡先：高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

## (全地域)

### 全国看図アプローチ研究会

◇「全国看図アプローチ研究会研究誌-12号」を公刊しました。12号も充実した内容になっています。

掲載論文

1. 1人1台端末を利用した高校生物における看図アプローチ授業実践

[http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.12\\_pp.3-9.pdf](http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.12_pp.3-9.pdf)

(溝上広樹)

2. 「VRクリティカル看図アプローチ」による臨床判断の授業実践

[http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.12\\_pp.10-24.pdf](http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.12_pp.10-24.pdf)

(織田千賀子・加藤睦美)

3. 看図アプローチを取り入れた保育士養成のための授業研究(Ⅱ)－メールヘンスケープ法を活用した書く力を育てる「基礎演習」授業－

[http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.12\\_pp.25-50.pdf](http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.12_pp.25-50.pdf)

(渡辺 聡)

連絡先：研究会事務局長 山下雅佳実 (a-yama@nakamura-u.ac.jp)

## 出版情報

### 教師のための教育効果を高めるマインドフレーム ：可視化された授業づくりの10の秘訣

学習を成功へと導く授業とは？ そのために、教育者はどのように自身の指導と役割を考えればよいのか。熟練教師の実践知とメタ分析によるエビデンスを融合し、教師のコンピテンシーと両輪となって教職専門性を支える10の「心的枠組み」(マインドフレーム)を示す。メタ認知、フィードバック、協働的な学びなど、現場のリアルな課題に応える。ジョン・ハッティ、クラウド・チーラー著、原田信之監修翻訳。北大路書房。

[原書] John Hattie & Klaus Zierer (2018).  
*10 Mindframes for Visible Learning: Teaching for success.* Routledge

